

## 第 1 回「美の滋賀」発信懇話会結果概要（主な意見）

日時：平成 23 年 5 月 14 日（土）

15:00～17:35

場所：滋賀県立近代美術館 講堂

### 〔「美の滋賀」を考える視点〕

滋賀県には長い時間をかけて築き上げられた人と自然が調和している景観がある。身近な美を見つけるといふことを考えていくとよいのではないか。（岩原委員）

「美の滋賀」で考えるべき美は美術館の芸術的美だけではなく、生き方のスタイルではないか。美的な価値と、暮らしのモデルみたいなものをどう提示していくのかといふこと。（鷺田座長）

京都はいろんな美的財産でもって観光客を世界中から集めている。大阪は、「美（う）まし」の文化。滋賀はどのような美で、どのような財産で、外部からの方、あるいは日々ここで暮らしている方と結びつけていくのか、そのコンセプトが重要。（鷺田座長）

「美」というのをもう少し広く考えて、滋賀県の良さといふことで考える。琵琶湖をうまく使って滋賀県にしかないよといふのが何かできないか。（牛尾委員）

3本柱よりも、もっと大きな枠組みを考える必要があるのではないか。（中井委員）  
産業界から見て、今滋賀県で一番大変なのはデザイン性が非常に乏しいといふこと。（中井委員）

歴史や伝統文化の証人であり、滋賀の風土を体現する存在でもある仏教美術を通じて、現代に生きる私たちの感動をいかにして呼び起こすか、そのために必要な理念と実現する手法は何か、今日的に問われている課題。（木村委員）

### 〔滋賀ならではの美〕

滋賀ならではの美とは、「ハレ」の日の美だけではない。アール・ブリュットや仏教美術は日常的な感覚の中から生まれ、守られてきたもの。滋賀モデルといふものを勇気を出して考えることが必要。（保坂委員）

滋賀の美といふのは支え合っている美。それを外に伝えていくときも、上から目線ではなく、その地域の人々の生の声として、いろんな人の意見が集積して、県全体の魅力になっているというやり方が合っている。（保坂委員）

滋賀県は近畿圏の中心で、北陸、中京圏にも近く、交通的に中心、センターの役割。京都の文化、大阪の食べ物という話があったが、滋賀は都市の環境、一番暮らしやすい県といふのが一つのキーワードではないか。（岩原委員）

### 〔再編集・再構築が必要〕

滋賀県は文化資源がたくさんあるので、これをいかに組み合わせる有効にやっていくかといふことが一番大事。また、日本に一つしかない琵琶湖をいかに「美の滋賀」の発信に活用するか、琵琶湖を舞台にした芸術活動といふものが考えられないか。（牛尾委員）

滋賀県の中にはいろんなコンテンツがある。量を増やすとか、もっと何々しようといふことではなくて、今あるものをどう再編集、再構築するかといふことを考えていければいい。（中井委員）

本当にいいものがいっぱいあるのに、その良さがなかなか見えにくいときに、どういふふうになんかを伝えるか。その切り口とか、リデザイン、リエディットといふ再編集のやり方が大事。（鷺田座長）

#### [工夫の視点]

県立の施設だけでなく、琵琶湖を取り巻く美術館、博物館がネットワークを持って同時に情報発信すればいい。(中井委員)

アクセスも重要。幾ら素晴らしいものであっても、人を惹きつけるような魅力ある再デザインが必要。(長谷川委員)

美術作品というのは、本来それぞれの文化圏に属しており、違う文化圏の人にとっては、物理的、精神的に距離がある。この「距離」や「遠さ」は、もっと敬意を払うべきもので、そうした「遠さ」を確保するために、あえて作品を移動させないという選択肢を今後の美術館は考慮にいれていくべき。(保坂委員)

単純にわかりやすい、行きやすい場所で、そこに行ったら何かすごく楽しかった。それだけでもいい。いつでもそこに行けば、それがあるという、そういうものをつくっていくことが重要。(長谷川委員)

エンターテインメントで人を集めるのではないということ。一方で、敷居が高すぎていけないということ。エンターテインメントでなく、まさに今回の「美の滋賀」の「美」に当たるもので、クォリティーを崩さず、むしろそれを上げて、同時に敷居を低くして人が集まってくるという仕掛けが要る。(鷲田座長)

#### [美術館の役割]

美術館は敷居が高い。(稲増委員)

美術館がすべてを変えるとは言わないが、大きな波及効果は持つ。歴史と現在とをつなげていくことによって、今行われているさまざまなアクティビティが一気につながっていく、そういう役割があるのではないか。(長谷川委員)

アヴァンギャルド、つまり新しい何かに「光」を与えていくという精神性を強く持っていることが、近代美術館と呼ばれる存在には必要なのだということを忘れてはいけない。(保坂委員)

#### [ホスピタリティ]

ホスピタリティというのは、ただ、心安らかに迎えるだけではなく、相手を受け入れることによって、自分が変わっていくという意味に受け止めた。そこまでの深い出会いをさせるような演出をどうしていくのが非常に重要。(長谷川委員)

すごい財宝や仏教の美術作品などを見せたり、あるいはものすごくおいしいものを食べさせて、美しいだろう、うまいだろうと言って相手を喜ばせるという、ニーズに応えるホスピタリティではなく、逆に、その人に何か問いかけるといふか、自分自身の生き方、あるいは時代のあり方ということについて、問い返し、問い直しを求めるようなホスピタリティ。(鷲田座長)

滋賀県で暮らすことで一番大事なものを守っていく、あるいは充実させていくということと、外からの人が滋賀県に求めているものをどう提供していくかということは、実は案外近いのではないか。(鷲田座長)

#### [第2回懇話会に向けて]

本当に滋賀にあるいいものをまず見つけ、再確認する。それをどう再編集していくか。今日はその結論を無理には出さないの、委員の皆様には、今日の議論を含め、再編集のキーワード、キーコンセプトを考えていただきたい。(鷲田座長)